

震災と復興記事で理解

奥州・江刺小

奥州市の江刺ひがし小（藤沢周一校長、児童106人）は、5、6年生を中心に朝学習で毎月1回、震災復興学習に取り組んでい

る。県教委の副読本「いきる かかわる そなえる」とプラス日報を活用し、東日本大震災の被害について知り、備えを考える機会に

している。

5年生は12月、「正確な情報を得て、デマにまどわされない」の項目を学習した。副読本を読んだ後にプ

ラス日報の「震災・復興学習」を活用。災害時のインターネット利用は有益な情報をいち早く得られる一方、真偽不明な情報が広が

り混乱を招くこともあると記事から学んだ。

同校は、信用度の高い情報に触れる大切さを子どもたちに実感させ、新聞を身近なものにするために記事を読む活動を導入。アウトプットの学習にも取り組み、プラス日報の新聞製作ソフト「クミハン」で修学旅行についてまとめたり、一人勉強で記事を読み感想を書いたり、場面に応じて取り入れている。

藤沢校長は「SNS（交流サイト）などで情報が偏りやすい時代だからこそ、新聞を通じて多様な考えに触れ、物事を客観的に捉える力と言葉を大切にする姿勢を育てていきたい」と話す。



副読本と記事を読み、理解を深める児童



児童が作った新聞

私と **プラス 日報**

先生から



江刺ひがし小 高橋 宏典講師(29)  
「震災・復興学習」は副読本の項目に沿って記事が掲載されていて便利。記事を読むと真実味が増し、学習したことを家庭で話題にするなどの広がりも期待できる。社会の「今」を新聞から読み取り、興味の幅を広げていってほしい。

児童から



江刺ひがし小5年 宮田 凜さん  
話題の記事を読み、新聞を作ることで、言葉を大切にするようになった。考えがしっかり伝わる表現ができて共感を得たときは、とてもうれしい。震災・復興学習などのメニューを活用していきたい。

プラス **日報** とは？

岩手日報社が提供する学校向け新聞活用プログラムです。児童生徒の読解力や情報リテラシーの向上を図るとともに、授業に活用できるコンテンツで先生方をサポートします。

利用できる機能は？

①デジタル版紙面の閲覧②過去約20年分の記事検索③新聞記事を題材にしたワークシート④新聞製作ソフトなど。そのほか震災復興やふるさと学習、進路学習をサポートするコンテンツを提供しています。

どう使われている？

朝学習で新聞を読んだり、行事を振り返る個人新聞作りなど多様に活用されています。2025年度当初時点で、県内の公立小中学校の約40%の学校が利用しています。

ご依頼はこちら！

「+日報」についてより詳しく知りたい方は、岩手日報社プラス日報事務局の専用フォームからお問い合わせください。

